

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

報告書・体験談フォーム

学部・研究科	教育学研究科学習開発専攻 特別支援教育学分野
学年	博士課程後期3年
トビタテ 期	6期
コース	<input type="checkbox"/> 理系、複合・融合系人材コース <input type="checkbox"/> 新興国コース <input type="checkbox"/> 世界トップレベル大学等コース <input checked="" type="checkbox"/> 多様性人材コース
留学計画のタイトル	盲ろう者とともに活躍できる社会に向けて —日本と世界の支援をつなぐ橋渡しとなる—
派遣先・地域・機関	英国バーミンガム大学大学院（修士課程）Special educational needs and disabilities 専攻/盲ろう者向け支援施設 Sense におけるボランティア
期間	2017年7月9日～2018年9月1日（14か月間）
実践活動の種類	<input type="checkbox"/> インターンシップ（無給） <input type="checkbox"/> インターンシップ（有給） <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> 支援企業コラボインターンシップ <input checked="" type="checkbox"/> その他 研究
留学プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA/USAC <input type="checkbox"/> その他学内プログラム _____ <input checked="" type="checkbox"/> その他 個人的に大学院博士課程へ入学
派遣先機関の見つけ方 コンタクトの取り方	私が最も学びたかったテーマが「盲ろう (deafblind)」についてであったため、盲ろうの研究をしている教授がいる大学に出願しました。その中でも、欧州で最も大きな盲ろう支援団体（Sense）と提携しているバーミンガム大学を選びました。また、Sense にもメールをし、ボランティアの許可を得ました。
留学した理由	留学した理由は様々ありますが、以下の3つが特に大きな理由です。(1)海外での盲ろう教育及び支援について学ぶため、(2)将来グローバルに盲ろう研究を続けていくために、海外の支援者や研究者との繋がりを作りたかったため、(3)アカデミック英語のスキルをつけたかったため。
留学前体験談 ■計画作成のコツ ■面接のコツ	初めてトビタテに応募した時は、締め切り直前に提出し落選しました。そのため、2度目には、(1)応募が始まる前から準備を始める、(2)いくつかの学校や施設へのコンタクトをとり、選択肢を増やしておく、(3)友達に見せても恥ずかしくないレベルに仕上げ、彼らからアドバイスをもらうことの3点を心がけ、作成しました。特に、トビタテの先輩からのアドバイスは、トビタテの意図や方針をよく理解されていて、大変役に立ちました。また、面接では、全員に必ず伝えることができるように準備をしっかりとすることで（大きなボードを使って発表、レジュメの用意など）、言葉で補えない部分を視覚的にアピールしました。このこと自体が合否を分けるというよりは、二次審査中の自分に対する自信に繋がったと思います。

<p>留学中体験談</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 成功体験 ■ 失敗体験 	<p>アスペルガー症候群のイギリス人への日本語指導、知的障害児のチューター、8.6 平和記念礼拝におけるお話の朗読、青年期の盲ろう者の社会参加の支援、イギリス手話の勉強、クロアチアの施設見学 等。これらはどれも、渡英前には全く考えてもいなかった経験です。留学中は、イギリスでしかできないこと誰よりもする！という気持ちで貪欲にコンタクトを取りました。実際は、英語力がなく、その場にふさわしくないのではないかとも思いましたが、感謝の気持ちを忘れず、すべて全力を尽くし、やり切れたと思います。反対に、学問においては、毎週の課題がとて多く、それに追われてしまいました。特に英語力がないことが原因になることもありました。トビタテは、語学力を重視しない制度ですが、実際に語学力があればあるほど留学は実り多いものになるだろうなと思いました。</p>
<p>留学全体の体験談</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ トビタテでよかった事 □ 留学前後で変わったこと 	<p>トビタテは、金銭的な支援だけでなく、留學生活全体を支えてくれました。応募の段階でも、自分がなぜ留学するのか、どこまで現実的な準備ができているか等、自分に問かける良い機会となりました。また、他のトビタテ生の活動内容を知ることで、自分の留學生活へのヒントも得られました。</p>
<p>広大学生にひとこと</p>	<p>留学を考えている皆さん。留学したいと考える時、希望や憧れだけでなく、犠牲にするものも考え、躊躇う気持ちもあると思います。もし留学しなかった場合の私が、今どう思っているかは分かりません。しかし、私は今、行かなければよかったと思うことは一つもありません。やらなかった時には、道を振り返ることしかできないけど、やった時には、違う道を選ぶこともできます。是非、少しでも留学してみたいと思う気持ちがあれば、今すぐ行動してみてください。応援しています。</p>

よろしければ今回の留学の雰囲気が分かる写真とタイトルを記載してください。



平和祈念礼拝（ヒロシマ・デイ）



バーミンガム大学



play」

ボランティアでお手伝いした活動「Messy



各国の料理が集まるポットラックパーティ@先生の自宅

